

白根三山縦走

古川真人

6月末に南アルプス：白根三山（北岳・間ノ岳・農鳥岳）を踏破しました。広河原登山口を起点に奈良田登山口へ下山する二泊三日の山旅でした。

昨秋、南アルプス：鳳凰三山（地蔵岳・観音岳・薬師岳）縦走の際、左前に富士山、右手に白根三山の山並を望み、あれが富士山に次ぐ日本第二の山（北岳）と第三の山（間ノ岳）か、近いうちに…と闘志を秘め山旅を楽しんでいました。

帰宅後早速検討に入りコースタイムは？、山小屋はどこ？、水場は？、残雪は？、山の天気は？…などを調べ7月の梅雨の晴れ間を縫っての二泊三日を計画しました。

が、なんと今年は例年より早い6月の梅雨明け。山の状況は…天気良、残雪無とのことだったので翌日の28日に急遽出発することにしました。まず山小屋を予約、急ぎ支度し水の調達箇所を確認して早めに就寝しました。

翌朝3時に出発、途中SAで朝食をとり市営芦安駐車場に着いたのが6時半。これより先はマイカー規制のためバスで広河原登山口に向い着いたのが7時45分。いよいよ白根三山縦走の始まりです。ここから6時間半かけ約1,500m登った今日の宿泊地：標高3,000mの「北岳肩の小屋」を目指しました。



位置図



急登の始まり

登り始めて暫くすると急登が始まり、追い越されることはあっても追い越すことのないただひたすら登るのみの登山道。時より下山する人とすれ違いざまに声をかけられても返事はかすれ声、「なんでこんな思いして登らなきゃいけないんだ」と弱音が…。3時間ほど登ったところに山小屋が…、ここで一息入れ再出発。

それから2時間ほど登って何気なく振り返ったその時、なんと山の上から富士山が顔を出しているではありませんか。その富士山が「頑張ってるよ～、応援しているよお～」と言っているかのように思え、登っては振り返り、登っては振り返り、そのたびに大きくなる姿に背中を押され険しい岩場も何のその！、こんなのは計算済みだ！、とばかり

両手を使い山岳動物のように登って行きました。

登り始めて約6時間、30分早く「北岳肩の小屋」に到着。まずは酷使した足腰を・・・と丸太にどっかと腰を下ろしここまでの道程を振り返っていました。暫くして雨水で顔を洗い到着を実感すべく周囲の山々を確認するかのように眺め、ハケ岳・甲斐駒ヶ岳・仙丈ヶ岳・鳳凰三山それに遠くは北アルプスが望めシャッターバチバチ。富士山もすそ野まで望め「よく頑張ったね」と微笑んでいるかのようにでした。

夕食は6時、ご飯・味噌汁はお代わり自由、明日に備えてともにお代わり。腹ごしらえ後明日の工程を確認し就寝。とグッスリ寝る予定でしたが隣のいびきがうるさい上、寝返りの際コロナ対策の仕切り板にぶつかりドンドンと音をたてる始末。結局熟睡できないうちに外が薄明るく・・・。

5時朝食。今日は北岳(3,193m)、間ノ岳(3,190m)、農鳥岳(3,026m)の三山を縦走し奈良田方面の「大門沢小屋」へ下る10時間半の縦走路です。



険しい岩場



山小屋からの富士山



北岳山頂

食後早々に小屋を出発。岩場を約200m登ること40分で北岳登頂。睡眠不足と早起きの慣れない状態で登ったのでいつも以上にきつく感じられました。登頂後早速記念撮影。風に煽られないように標柱に掴まっていたの撮影でした。山頂は視界を遮るものなし。360°の大パノラマ。昨秋の願いが叶った一時でした。

が、今日は先が長いとばかり早々に腰を上げ遠くに見える間ノ岳へ・・・。1時間ほど下ったところに北岳山荘がありましたが改装中で休憩もままならず先を急ぎました。

この辺りはここでしか見られない北岳草が可憐な花を咲かせており、今が見頃とあってそれを目当てに登って来る人もいました。

北岳草観賞はそこそこに、目指す間ノ岳へとスピードアップ。意気込んで登ったせいか途中でバテバテ。休憩を挟み40分で間ノ岳山頂、と思いきや何と中白峰山(3,055m)、意気消沈。何だこの山は・・・、何でこんなところにあるんだ・・・、北岳から見えていたのはこの山か・・・、と感激もそこそこに先へ。ところが先程のスピードはなく休みを繰り返し1時間登ったところが間ノ岳山頂。何だか



北岳草

1 山騙されすっきりしない登頂でした。

今回の登山者の多くは北岳と間ノ岳を登頂後引き返し下山する人が殆どで、これより先は一人旅となりました。

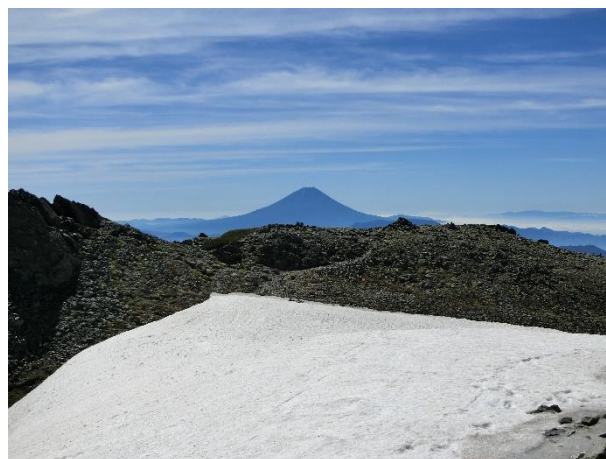
約1時間下ったところに「農鳥小屋」がありここで早めの昼食。この小屋のおやじは説教魔で有名な「名物おやじ」。遊び心の登山者には山の心得を何時間も説教。特に学生ともなればいい材料。中にはもう二度と泊まるものか、と言う人もいるとか…。

そんな名物おやじにこの先の状況を尋ねると、背後の見上げる山が西農鳥岳(3,050m)で農鳥岳はここからは確認できずまだ先とのこと。またかあ～。いったい三山の間にくつつあるんだ…とガックリ。戻れば三山、

進めば二山、ならば未知の二山に挑むか、と1時間ほど登ったところが西農鳥岳山頂。農鳥岳がやっと見えるが疲れが出て足取り重し。白根三山と言っではいるものの白根五山

じゃないか、と予定狂いに憤慨。予想以上のアップダウンで苦しい今回の山旅は、高山病で悩まされた富士山登頂以来で、年齢を感じ、もう高山は無理かなあ～、今回で終わりにしようかなあ～、とブツブツ言っていると行く手を阻む大きな雪渓が…。こんな筈では…。左側は急斜面滑ったら最後、右側は

やや緩やか、何とか…と思われる箇所を蹴りこみながら前進。ところがバランスを失った瞬間滑って尻スキー、10mほど先の雪渓の縁で止まったものの滑った場所が悪ければ…クワバラクワバラ。



雪渓



農鳥岳山頂(後方に北岳・間ノ岳を望む)

西農鳥岳より下り、また登ること40分で農鳥岳山頂。ヤッター、白根三山縦走。あとは小屋まで3時間半下るのみ。一気に元気が出て鼻歌混じりの下山。五度のアップダウンで疲れたものの下りなら体力はそれ程必要ないし…と思ったら今度はとんでもない急斜面。転び易い小石混じりのガレ場のため恐る恐るの猫足下山。下ったと思ったらまた登り。もう足はガクガク。ステッキで足を支えてのノロノロ下山のためスピードダウン。約1時間遅れの5時に「大門沢小屋」到着となりました。踏破時間に11時間半を要しグツタリ。

小屋に着くと冷たい沢の水を頭からザーとかぶり汗を拭きそして夕食。今日の道程を小屋のおやじに話すと「北岳から来た人は皆生気が無くなっているよ」とのこと。その話を聞いて、そうだよなあ～、きつかったからなあ～、自分だけじゃないんだ…、

体力がない訳じゃないんだ・・・、と妙に納得。自分も満更でもないなあ～と自信を取り戻し乾杯。

この日は営業開始前日とあり宿泊者は一人。昨日とは違って静寂そのもの。食後すぐ寝て翌朝4時まで爆睡。目覚めのいいこと。5時の朝食後、奈良田登山口まで3時間の道程。足取りも軽く出発しました。

下山後30分ほどすると後方から人声が・・・？、先の小屋でキャンプをしていた10数人の若者でした。あっという間に追い越され、なにくそまだ若い者には負けないぞ・・・、と意気込んだものの差は開くばかり。40分ほどで姿が見えなくなりました。

これ以上離されまいとそれなりの速さで下りましたが、沢を横切るところで道を見失い、対岸の道らしきところの最短距離の飛び石を渡っているとツルッと滑り川中へザッブーンと・・・。その際肘と脇腹を強打、数秒は身動きできず流れに身を任せていましたが、その冷たさに我に返り岩を手探りしながら起き上がりました。が強打した肘から出血し手首を伝い指先からポタポタと・・・。川辺で傷口を洗い応急処置をし、衣服も取替え、打撲箇所を気にしながらの下山でした。カメラも浸り使用不可になりました。

そんなハプニングがあったにもかかわらず奈良田登山口のバス停には予定時刻に到着。傷の手当などのロスタイムをカバーしたスピード下山だったことに「若者には負けたがまだ若い」と痛みを耐えて自己満足。一方、沢渡りで冷静に判断し慎重な行動をとっていたら・・・と反省させられた出来事でもありました。

バスは広河原で乗換、市営芦安駐車場でマイカーに乗換、自宅に着いたのが午後4時頃でした。

翌日病院へ。強打した肘と脇腹のレントゲンの結果、骨に異常なしでしたが内出血および痛みがひいたのが約2週間後、あの若き頃の回復力はどこに・・・。

夏山登山は暑さもあり道程はきついですが山頂からの眺めは素晴らしくそれまでの疲れを吹き飛ばしてくれる上、景色を眺めながらの食事は格別で山好きにとっては至福の時間です。そんな感動を味わいたい方、足腰に自信がある方は一報ください。まずは低山から案内します。あっそうそう、山の朝は早いので寝坊症の方はお控えください。